

人の30分

カルタゴの女王とトロイの王子との人間愛と悲劇を描いたオペラ「ディッドとエネアス」が十一月二十五日、つくば市のフバホールで公演され、深い感動を呼んだ。その王子・エネアスを演じたのが堀部さんだ。イタリア留学を除いて土浦市で音楽活動三年、今年の一、二月につくば市の現住地で音楽教室を開いたばかり。東京など大都市では今、空前のオペラブームという。「地方では、まだまだですね。長い目で見るしかありませんが、地方文化の発展に少しでもお役に立ち

たい」と地域に根ざした地道なオペラ活動に情熱を燃やす。

小さいころから口数少なく引込み思案だった堀部少年が、音楽に目覚めたのは中学生になってから。歌のテストが行われた日、それまで満足に声も出せなかったのに大きな声で歌った。同級生は大笑い。「その時、先生が大声で同級生をしっかりとつけてくれたんで

す。感激しました。その先生が好きになりましたね。私も音楽の先生になろうと決心しました」

高校に入って合唱団で歌ったり、ブラスバンドでクラリネットを吹いたりして音楽にのめり込んだ。そして三年の時、音楽への道を決意、フランスの音楽教育システムを取り入れている東京・水道橋のコンセルヴァトワール尚美へ入学した。

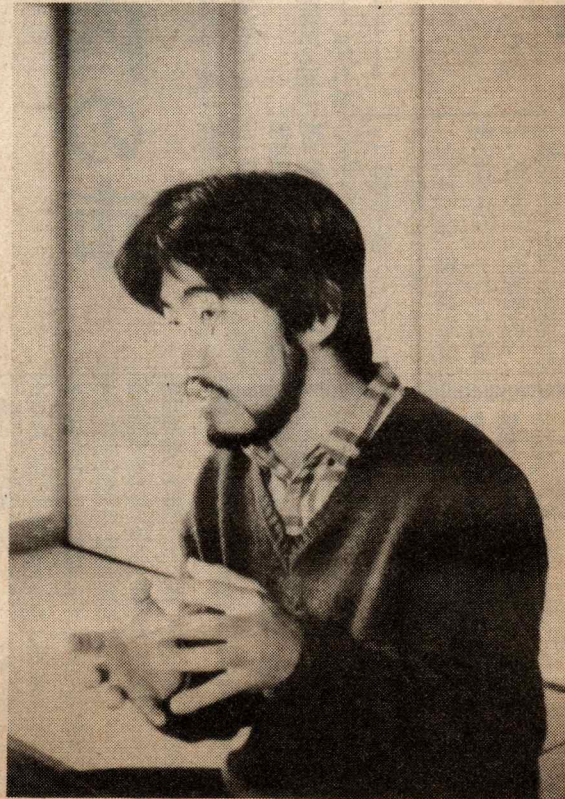
やがてオペラに興味を持つ。そのきっかけは、勉強を兼ねて東京歌劇団のコーラスに参加したことから。さらに決定的にしたのは教授の一言。「人の心の痛みがわかるようになれば先生ではない。その点、オペラは役の性格になりきるこ

音楽家

堀部 一寿さん

よき指導者と出会い

声楽、オペラに酔う青春



昨年7月イタリアから帰国しつくば市にピアッツァ・アルテという音楽教室を開き精力的に活動する堀部さん

ほりべ かずとし 昭和三十七年四月十三日、東京都生まれ。二十八歳。五十九年、東京・水道橋のコンセルヴァトワール尚美卒。土浦、守谷で音楽教師、イ

だが「自分だけでは力にぶつかり、不安が募る一方でした」。そこで思い切ってオペラの本場・イタリアへ飛び、ミラノ市でイタリア人学校の教授に師事して発声の基本から学んだ。この間、ドイツ人学校でオペラに出演したり、教会の合唱団メンバーとして演奏旅行に参加するなど異国生活一年。「ようやく安心感が沸きました」

昨年七月帰国、ピアッツァ・アルテを開く。イタリア語で芸術の広場という意味。ピアノ、声楽、リコーン、ギター、フルート、琴、尺八の名教室を設け、それぞれ専門の先生が指導に当た

堀部さんの人生を決定づけたのは二度にわたる教育現場の先生だった。よき指導者との出会いは幸せである。

尚美を卒業して土浦でアルバイト住まい。尚美の研究

科二年の時、茨城オペラの水戸公演「魔笛」に出演したのが茨城県との縁。「東京育ちの私には地方はあこがれのまちでした」と、都

和小学校や守谷町の中学で音楽教師をしながら土浦

女性合唱団エバゲリンや少年少女合唱団の指導に当たるなど地域音楽活動に励む。また東京の国際芸術家協会のオペラ出演や土浦でリサイタルを開くなど自分自身の勉強も怠らない。

分自身の勉強も怠らない。

人の目 30分

「コ」の女王セロロイ
の人間愛と悲劇を
道なオペラ活動に情熱を燃
やす。

が十一月二十五
は市のノバホール
れ、深い感動を呼
の王子・エネアス
のが堀部さんだ。
留学を除いて土浦
活動三年、今年の
は市の現住地で
を聞いたばかり。
と天都市では今、
ラフォームとい
たでは、まだまだ
長い目で見るしか
なが、地方文化の
してもお役に立ち

す。感激しました。その先
生が好きになりましたね。
私も音楽の先生になろうと
決心しました」

高校に入って合唱団で歌
ったり、ブラスバンドでク
ラリネットを吹いたりして
音楽にのめり込んだ。そし
て三年の時、音楽への道を
決意、フランスの音楽教育
システムを取り入れている
東京・水道橋のコンセルヴ
アトール尚美へ入学し
た。

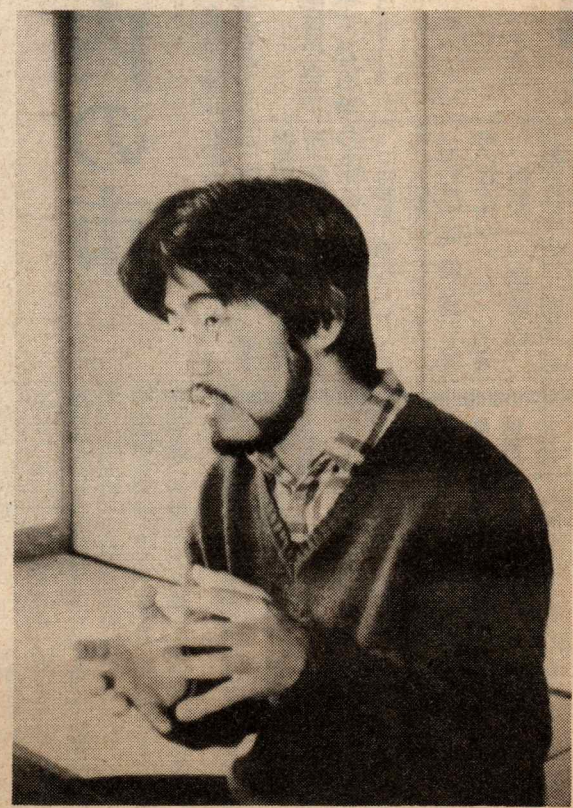
やがてオペラに興味を持
つ。そのきっかけは、勉強
を兼ねて東京歌劇団のコー
ラスに参加したことから。
さらに決定的にしたのは教
授の一言。「人の心の痛み
がわかるようではなければ先
生ではない。その点、オペ
ラは役の性格になりきるこ
とから始まる。よい勉強に
なるはずだ」。このように

声楽家

堀部 一寿さん

よき指導者と出会い

声楽、オペラに酔う青春



昨年7月イタリアから帰国しつくば市にピアツァ・アルテという音楽教室を開き精力的に活動する堀部さん

ほりべ かずとし 昭和
三十六年四月十三日、東京
都生まれ。二十八歳。五十
九年、東京・水道橋のコン
セルヴァトール尚美卒。
土浦、守谷で音楽教師、イ
タリアへ二年留学ののち今
年一月、つくば市稲荷前二
六の九で「ピアツァ・ア
ルテ」(音楽教室)を開
く。妻と長女の三人家族。

だが「自分だけではカベ
にぶつかり、不安が募る一
方でした。そこで思い
切ってオペラの本場・イタ
リアへ飛ぶ。ミラノ市でド
イツ人学校の教授に師事し
て発声の基本から学んだ。
この間、ドイツ人学校でオ
ペラに出演したり、教会の
合唱団メンバーとして演奏
旅行に参加するなど異国生
活一年。「ようやく安心感
が沸きました」

昨年七月帰国、ピアツ
ァ・アルテを開く。イタリ
ア語で芸術の広場という意
味。ピアノ、声楽、リコー
ダー、フルート、琴、尺八
の各教室を設け、それぞれ
専門の先生が指導に当た
る。「音楽教室は各所にあ
りますが、歌とでもに教え
る教室は少ないんです」
と、その役割を強調する。
堀部さんの一日は忙し
い。教室での指導はもちろ
ん、公民館などで合唱団の
指導、来年一月の教室の生
徒発表会、二月の土浦市民
会館で開くロック・オペラ
公演の準備と、スケジュール
はいっぱい。

「私などオペラだけで生
活はできませんが、舞台で
ドラマの人生に引き込まれ
ていく快感は、なんともい
えませんが」と堀部さんはオ
ペラに酔う。それは、オペ
ラファンにも通じる快感で
もある。

堀部さんの人生を決定づけ
たのは二度にわたる教育現
場の先生だった。よき指導
者との出会いは幸せであ
る。

科二年の時、茨城オペラの
水戸公演「魔笛」に出演し
たのが茨城県との縁。「東
京育ちの私には地方はあこ
がれのまちでした」と、都
和小学校や守谷町の中学で
音楽教師をしながら土浦の
パート住まい。尚美の研究

女性合唱団エバークリン
や少年少女合唱団の指導に
当たると地域音楽活動に
励む。また東京の国際美術
家協会のオペラ出演や土浦
でリサイタルを開くなど自
分自身の勉強も怠らない。